

＜藤田の発表について＞役に立ったこと、もっと聞きたかったこと、ご感想、ご質問など、ご自由にお書きください

まず、先生のお人柄に惹かれました。このような明るい雰囲気での授業はさぞかし楽しいものと思われれます。また、ただ教師が教えるのではなく、学生に考えさせ、頭を使わせる授業は学生の満足度も高いのではないかと思います。ただ、授業準備には(アイデアを考える)は私にとって時間がかかりそうです。

ブレイクアウトセッションで抜くの意味を考えられてよかったです。

普段漢字を教える際に、その言葉の共通の意味をここまで深く考えたことがなかったのでとても刺激を受けました。(基本的なものは考えたことがありますが、全部を網羅する、ことまで追求していませんでした。)現在教えてる学習者個々のタイプを考えて、どこでどの程度まで使えるか、考えてみたいと思います。

漢字の授業で、皆で使い方のルールを見つけるというのは新鮮でした。

抜くにもいろんな抜くがあることにびっくりしました。

初めて参加させていただきました。藤田先生の熱意、学習者も教師も自律的に学ぶことの大切さ、深く深く伝わりました。

言葉の違いを考える機会は多くありますが、共通点を探す作業はほとんどしたことがありませんでした。その漢字を見ただけで学習者がイメージできるようになれば、読解などで知らない語彙が出てきても想像がつくのではと感じました。

みんなでルールを考えるなど、楽しそうな取り組みなので漢字の授業はないですが語彙の導入などで実践してみたいと思います。ありがとうございました。

「抜く」「無い」をこのように取り上げ、学習者に考えさせる活動をなさっていることに感銘を受けました。

ことばの持つ意味を、グループで話し合いながら深く考えるという経験がとても楽しかったです。学生の気持ちも味わえてよかったです。

「抜く」の使い方の共通点を探ることは、通常意識しないので、とても勉強になりました。他の語彙でも考えていくと、無数に出てくるだろうと気づきをいただきました。

最初は、「抜く」という言葉にこだわり使い方意味などを考えましたが、そのうちに、一つの言葉を深く考え相手にどのようにわかりやすく説明できるかを考えていることに気が付きました。自分がわかると、相手にも伝わりやすくなるということですね。ありがとうございました。楽しかったです。

「パワーポイント N3」語彙の授業でちょうど 抜く をしたところです。説明では3つぐらいしか例文で用意できませんでした。今回の会のあとでなら、もっと、学生に提出できたのに、残念。

「抜く」の共通性についてブレイクアウトルームで話し合う時間が楽しくてたまりませんでした。学生にも授業中にぜひこのようなワクワク体験をしながら漢字を学んでもらいたいと思いました。

例文の 10 番は複合動詞ですね。複合動詞の「抜く」は「②続けることによって」「③やり遂げる」の意味があると思います。

抜くを掘り下げののも興味深かったですが、ほかの例(もっと身近な)もお伺いしたかったです。

漢字の複数の用法について、掘り下げて考えることが興味深かったです。日本語学校では初級クラスを担当しているので、本日のような議論は学習者とはできないでしょうが、彼らに考えるきっかけを投げかけることはできるのでは?と思います。どのように、どんなことを投げかけられるか、まだ良い案は浮かんでおりません。しかし学習者に「考えてもらうこと」を意識して、今後の漢字練習を行っていきたいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。

一つの動詞の意味についてこれほど深く考えたことがなかったのでいい機会となりました。

とても楽しいワークでした。授業に取り入れたいと思いました。

言葉をいろいろな角度から眺めて、共通項を見いだす作業はとても役に立ちそうです。

同じ日本語でいろいろな使い方をすることに気づきました。

今まで深く考えていませんでした。

「抜く」について昨日からずっと考えていました。やはり「抜く」には元々あった、存在しているものを何らかの力や技で取り去るという意味があるように思います。だから先生がおっしゃるような普通ではなかなかできないことを続ける、困難や障害があってもそれに打ち勝って成し遂げる意味が言葉の原義にあるように思います。「血を抜く」とか「息抜き」なんかも本来はしっかり存在するものをなんらかの理由で取り去る意味があると思いました。」

2021 年 2 月には海外から Zoom 参加させていただきましたが、やはり対面のほうが楽しかったです 😊

辞書で意味を調べてただ覚えるだけではなく、考える力を養う授業をしたいと常日頃から思っていたのですが、私自身、今日の「抜く」に苦戦..とても考えさせられました。まさに考える漢字！いいですね。先生の著書を早速購入して、どう授業で使えるか、今後が楽しみです。今日は、私自身が、漢字って面白い！と思えたのが、一番の収穫です。ありがとうございました。

「ぬく」という日常のありふれた言葉が、ここまで広く深く広がる世界に誘ってくれたことが、新鮮で興味深かったです。改めて日本語の不思議さ、面白さ、斬新さに気付かされました。そして、藤田先生の楽しいお話に引き込まれました。ありがとうございます！

まずは、初めて、生の藤田先生にお会いできて嬉しかったです。

【役に立ったこと】あることばの意味を考え、言語化する過程は、それがぴったりの正解ではなかったとしても、そのことばを本物の語彙力として活用できるようになるために非常に有効であると身をもって理解できました。あとは単純に楽しい活動でした。

【もっと聞きたかったこと】

藤田先生が大学で行われた「抜く」の授業では、学生さんから様々なイメージが提出されたと思いますが、そこからどのように「答え」に近づいて行ったのかや、授業の後でさらに質問や展開があったのか、などを伺いたいなと思いました。

実際に「抜く」の例文を見ながらグループで分類したことは大変いい経験になりました。同じ課題を学習者が取り組むということは、本当にハイレベルで深い学びだと感じます。

今回は「抜く」でしたが、いろいろな語彙について検討してみたいです。

漢字は字源から派生し、変化していくものなので、共通の言葉や表現を見つけなくてもいいのではないかと思います。とくに、複合動詞は単なる「抜いた」ではなく、3は車を「追い抜いた」、10は「走り切る」と同じ複合語で接尾辞に近いような気もします。11も「撃ち抜いた」なので、3、10、11については、他の「抜く」と同等に扱えないように思うのです。また、例文が現在形か過去形か、内容の状況が限定的ではないか(影響を受けやすいと考えるべきではないか、というか...)と思うものもありました。例えば、7「力を抜く」ことが容易でなく、無意識に力が入っていたという解釈より、例文に沿って「空手においては」と限定的に考えた方が自然なのではないかということです。9 風呂の栓がなければ抜くのは困難と言えるのは、漢字ができた時代に戻ればということ？ かもしれませんが、そうすると風呂の歴史から考えるべき問題では？とも。それは考えすぎ？

ただ、学生や教員も巻き込んで何千年も昔からある漢字の字源や本来持っている意味、変化してきた長い歴史について、あーでもない、こーでもないと考えるのはおもしろいと思います。正しい答えがほしい人には、物足りなさを感じさせ、消化不良を起こすかもしれませんけれど...

藤田先生のフレンドリーな話し方、学生(聴衆)との関係性の作り方、先生の熱量は、話される内容と同じくらい参考になります。

一方的でなく、グループワークがあり参加型だったので、楽しかったです。

「抜く」について、他の先生方と話ながら考えることができたこと。みなさんのご意見を伺うことができたことなど、勉強になりました。ありがとうございました。

考え方の工夫が役に立った。ありがとうございます。

「抜く」の作業に集中するあまり、その前後のお二人の話が抜け落ちてあまり思い出せなくなっています。すみません。

ぼんやり覚えているのはご自身の幼少期の漢字学習への嫌悪感からこの本を作られたとのこと。その視点から本を拝見してみようと思います。

現在、先生は漢字を書くことについて、どのくらい重きをおいているのか伺いたいです。今は、ほとんどタイピングで、手書きの場面がかなり減って、限定的になっています。今、タイで日本語を教えていて、やはり「漢字」に対する苦手意識は高く、それが原因で日本語を諦めてしまう学生もいて残念です。

共通点を考えることで中核的な意味を自分で見つけ出す活動はとても楽しく、自然に語彙が覚えられてとてもいい方法だと思いました。

私はこれまで、一つの言葉を調べた時に、いくつかの意味があり、それをそのまま受け入れて、全てに共通する概念まで考えたことがなかったので、今回の研修会はとても興味深かったです。「抜く」のほかに、学生たちに考えさせた言葉はありますか。それもお聞かせいただけると嬉しいです。

藤田先生の整理の方法やお考えが聞けて良かったです。グループワークも楽しかったです。

11こもの例文での共通するもの考えるのは初めてで、ゲーム感覚でとても楽しかったです。また、グループワークで意見を出し合うと発想力が研ぎ澄まされ、学生が意欲的になるのが理解できました。「抜く」には同じ概念で、使われ方がこんなにあるなんて、日本語は奥深いなあと感じました。他の言語の紹介をしていただきましたが、日本語と比較すると面白いなと思いました。全てが楽しく時間がすぐに過ぎました。ありがとうございました。

とても楽しかったです。考えることで脳が活性化し、ボケ防止になったように思いました。テキストは持っていて、非常勤をしている学校で「使おう」と言い続けているのですが、「超級」という言葉が邪魔をして、現在は「上級」のほうが採用されています。難しい語彙が多い上級より、基本漢字が網羅されている超級のほうが使える言葉も多いと思っているのですが、私のプレゼンがなかなかうまくいきません。お話しなさっていた教師のための使い方の資料をぜひ拝見したいと思います。本日のこのお題、「なくなる」と「抜く」教師仲間にも投げかけてみてもいいでしょうか。

「抜く」の根本的意味を考えてみるのが、とても勉強になりました。

日本語は、一つの言葉に多くの漢字が有り、意味を表すだけでなく、一つの言葉に多くの意味を伝える面白さがあると思いました。それが海外の言語では、どうなのかを考える機会になりました。

楽しく学べました。

学習者のレベルが同程度でスト進み具合の調整もでき展開ができると思います。

ネイティブが意識せずに使い分けている言葉の定義を方式のように言語化するのはおもしろかったです。助詞や文型についてもこの言語化は活かせると思いました。

また、能動的に授業に参加することの大切さに改めて気づきました。あっという間に2時間が過ぎました。今後の自分の授業に活かしていきます。

一つの動詞について、このように深く考える時間を持てたことがとても新鮮でした。最近、藤田先生の「考える漢字・語彙 超級編」を使う授業をしていないので、久しぶりに同じグループの先生方と考えを共有しながらの作業がとても楽しかったです。

私が今まで行っていた授業では必ず学習者に「この漢字はこういう意味だ」という紹介から各字の説明を始めてしまっていました。藤田先生のご講義の後、このような説明をやめることにしました。まず学習者に熟語や用例を見せてあげて、それから「共通の意味」を探すように練習させていきたいです。「考える漢字／語彙 超級編」はAmazonで注文済みです。今度の木曜日(3/5)に届きます。素晴らしいアイデアとインスピレーションを誠にありがとうございました。

「抜く」だけでなく、他の語もグループごとに担当すれば、より多くを考えられると思いました。

言語によって訳語がたくさんあったり、日本語のように一つだけだったりの例がとてもよかった。

初めて参加させていただきましたが、日本語の一つの漢字(言葉)のについて、これほど深く追及することに感心しました。このような勉強の仕方があるということが知れたことがうれしかったです。